用語解説

サツマイモの日は「10月13日」

サツマイモの日は、「10月13日」である。サツマイモの日の命名は、埼玉県の「川越いも友の会」が全国公募して決定し、1987（昭和62）年９月、全国に向けて宣言した。今日ではマスコミなども、サツマイモの日は「10月13日」と報道しており、ほぼ公認されているといえよう。

10月13日とした３つの理由

①全国的にみるとサツマイモの旬は10月。年間を通じて収穫量が最も多い時期で、いろいろな品種が出荷され、価格も安くなるのが10月である。

②中国の明時代の「農政全書」（徐光啓著、1639年）の中にも、サツマイモが有する13の利点を述べた「甘藷十三勝」がある。したがって、13にちなんだ日がサツマイモの日に最もふさわしい。

③江戸時代より“栗（九里）より（四里）うまい十三里”という、有名な川越産サツマイモ（特に焼きいも）のキャッチフレーズがある。その13とサツマイモの旬の時期である10月を結びつけた「10月13日」が、サツマイモの日として一般的に理解されやすい。

10月13日の覚え方

10･13→10×13→130→1∽0→ＩＭＯ（いも）である。

なお、川越市内にある妙善寺には、1995（平成７）年に建立された“川越いも地蔵”がある。毎年10月13日には妙善寺で、“いもの日祭り”の一環として、サツマイモに感謝する“いも供養”が催されている。

参考文献
(財)いも類振興会. 2010. サツマイモ事典.

いも類振興会　狩谷　昭男